

「家がいいね」 第103号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2012. 12. 15

わらしべ長者は利を追わない

まんが日本昔話で聞いた話です。

働けど貧しい若者が観音さまに願をかけました。その教えで最初につかんだ「藁しべ」。アブが結び付けられた「藁しべ」として、その後は求めに応じて蜜柑↓反物↓馬↓屋敷と交換してゆきます。手に入れた土地をこまめに耕して長者になっても、彼は藁一本粗末にはしませんでした。全て等価交換であり、利を追わない不思議な縁と物を大切にします。観念が、この話の根底にあります。

今年の漢字は「金」だそうですが、カネと読まないほうがいいのではと思います。

伊勢市の今年を振り返ると、縁と物を大切にするタイミングを失った例が幾つか浮かんできます。

明日に南北幹線道路が完成しますが、もしこの道の先に日赤が移転実現されていたならと考えると残念に思えます。救急車も乗り入れやすく、人の流れも変わる。ならば駅も新設されたかもしれません。



伊勢病院の新築移転の話も、私なら倉田山球場との土地交換で工夫したらと思います。ですが、これもタイミングを逸したようです。**順な縁を生かす知恵が、人口も財源も減るこの先の伊勢市では求められますね。**

でもドーナツ現象だと嘆かずに、穴も考えようで使えます。空家を利益抜きで地域のために使ってもらおうという動きが欲しいものです。リハビリや共同生活の拠点を街の中に作るため、貸主と借り手がつながる柔らかく



さも求められます。宮崎市では、民家を借り上げて、最期まで共同生活する家（ホームホスピス母さんの家）への行政支援が始まったと聴きました。

ひたむきな愛に支えられて

12月8日、甲府市での

ホスピス学校に参加の報告。

内藤先生のモットー「在宅

ホスピスは、**ありがとう**と

さよならが一つになると

ころ」です。在宅養生はす

べて生活の中であり、多様な文化にあふれていま

す。今回は絵本作家の内田麟太郎さんの「いのち

のことば」を聴きました。実際の彼はシャイで、

沢山の言葉を星のように散りば

めつつ「なみだ」の詩が光りま

す。実母に死に別れて、継母と

の折り合いが悪く、人生の大半

は波乱の連続だったとのこと

です。恒常的な愛への渴望が創作

へと結びついたのですが、継母との和解も印象的

なお話でした。ひたむきな愛に、二人の先生方の

生き方は支えられているのだと感じました。



進富座は来年も続く！

映画館かつ地域の文化センターとしての灯が消えず、個人の努力が続けて頂けることに感謝です。

映画を鑑賞することが条件のサポーター制度を

準備されたので、協力して地域の映画館の将来を

支えましょう。この第二幕のため、新年1月26

日の再開までは、骨休めの休館とのこと



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp

ホームページ <http://isezaitaku.com>

年末年始のお休みは、

29日(土)～1月3日(木) 休診

この間も訪問患者さんへは24時間対応です